

第四編  
教育・文化



# 第一章 教育委員会

## 第一節 教育委員会

教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第二三条に職務権限が示されており「当該地方公共団体が処理する教育に関する事務及び法律又はこれに基づく政令によりその権限に属する事務で、次の各号に掲げるものを管理し、及び執行する。」とあって一九項目があり、おおむね学校教育・社会教育等、教育文化に関する一切を扱っている。

### 事業

- 一 小中学校施設整備の充実
- 一 中学校統合審議推進
- 一 中学校寄宿舎設置・運営等審議推進
- 一 学校給食共同調理場設置・運営等審議推進
- 一 東川保育園の休園審議推進
- 一 中学校統合後の跡地利用審議推進
- 一 黒藤川小学校へき地集会所建設審議推進

### 教育委員

- 一 東川地区通学生の通学方法の改善等審議推進
- 一 生涯学習情報システム整備事業の審議推進
- 一 美川南小学校へき地集会所建設審議推進
- 一 教員住宅建設審議推進
- 一 二箇保育園の休園審議推進
- 一 美川中学校武道館建設審議推進
- 一 二箇小学校へき地集会所建設審議推進
- 一 東川小学校統合審議推進
- 一 学校週五日制の対応審議推進

氏名	期	間	備考
新谷 養一郎	五六・一〇・一〇	六〇・九・三〇	教育長再任
山本 田鶴子	五八・四・一〇	六一・九・三〇	
正岡 剛	五八・一〇・一〇	六二・九・三〇	
高山 猛	五九・一〇・一〇	六三・九・三〇	委員長
木山 徳重	五九・一〇・一〇	六三・九・三〇	委員長
新谷 養一郎	六〇・一〇・一〇	元・九・三〇	教育長再任
光田 有	六一・一〇・一〇	二〇・九・三〇	
木山 博史	六二・一〇・一〇		

仲川達郎	畝田繁雄	西田孝一	大原忠明	仲川達郎	畝田繁雄	光田有	新谷養一郎	山田三隆	西田孝一	高山猛
五・一〇・一	四・一〇・一	四・一〇・一	三・一〇・一	三・八・五	三・三・四	二・一〇・一	元・一〇・三	元・六・三	六三・一〇・四	六三・一〇・三
〃	〃	〃	〃	九・三〇	九・三〇	〃	七・三一	九・三〇	九・三〇	二・九
現在	現在	現在	現在	〃	〃	現在	教育長再任	〃	〃	六三〃二委員長
教育長再任				教育長		委員長				



## 第二章 学校教育

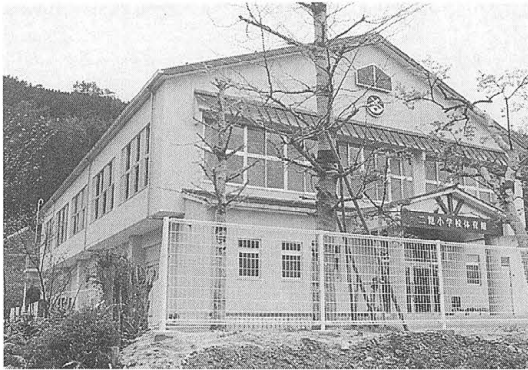
### 第一節 中学校統合

昭和五九年一二月、定例村議会において中学校設置条例が制定され、昭和六一年四月一日開校に向けて上黒岩二八九〇番地を敷地造成し、六〇年六月、美川村立美川中学校新築工事に着手、六一年二月には約二億六九〇〇万円をかけて鉄筋コンクリート三階建ての校舎及び木造の技術科棟が新築された。

また、中学校統合に合わせて、上黒岩二八四〇番地を敷地造成し、美川中学校寄宿舎及び学校給食共同調理場が約九九〇〇万円をかけて同時に新築された。

### 第二節 学校施設

現在、美川村には、小学校が五校、中学校が一枚あ



近代技術の粋を集めた二笠体育館

る。近年は過疎化がすすみ、小学校においては、各校とも複式学級をかかえた苦しい現状ではあるが、住民が一丸となって学校教育に協力している。

昭和六〇年より一〇年間で建築した学校施設は、別表のとおりである。

教員住宅は、平成六年度で保有一八戸、入居一八戸で、まだ二三戸の住宅が不足している。

山間地であるため、交通面でも市部に比べて不便であることは否めないが、出来るだけ家族同伴で腰をおちつけた教育に専念してほしい気持ちである。また、地域の文化・風土・習慣に慣れてもらい、地域に根ざした教育を実現していきたい。

体育館の建築については、児童生徒の基礎技能・体力の向上等学校体育はもとより、地域住民の社会体育の活性化、伝統芸能や講演会、催し物など、生活文化面での拡充発展の場としても活用される機会が多くなり、今後更に、整備・充実を図っていきたい。

過去一〇年間における施設の整備状況は次表のとおりである。

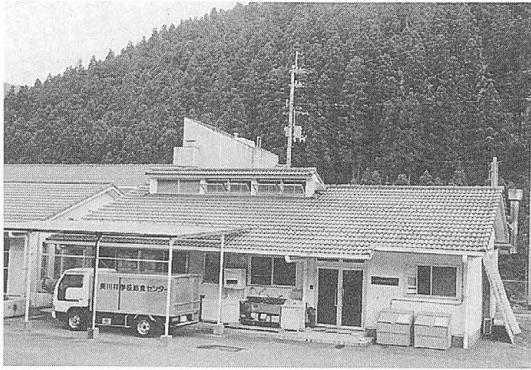
学校施設整備状況

年度	内	容
六〇	<ul style="list-style-type: none"> <li>美川中学校校舎建築工事 (約二億六九〇〇万円)</li> <li>寄宿舎建築工事 鉄筋二階建 五四〇㎡</li> <li>給食センター建築工事 鉄筋平屋建 一三二㎡</li> </ul>	
六二	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒藤川小学校へき地集会所新築工事 (約七五〇〇万円)</li> <li>鉄骨鉄筋コンクリート造 六五二㎡</li> </ul>	

元	三	四	五
<ul style="list-style-type: none"> <li>美川南小学校へき地集会所新築工事 鉄骨鉄筋コンクリート造 六七九㎡ (約八六〇〇万円)</li> <li>美川中学校へき地教員宿舎新築工事 木造平屋建 四戸 (約二七〇〇万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二箇小学校へき地教員宿舎新築工事 木造平屋建 二戸 (約一五〇〇万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美川中学校へき地教員宿舎新築工事 木造平屋建 三戸 (約五八〇〇万円)</li> <li>美川中学校武道館新築工事 鉄筋造 三七〇㎡ (約五七〇〇万円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二箇小学校へき地集会所新築工事 鉄骨鉄筋コンクリート造 五四七㎡ (約一億一〇〇〇万円)</li> <li>美川村へき地教員宿舎新築工事 鉄筋コンクリート造 二二九㎡ (約四一〇〇万円)</li> </ul>

第三節 学校給食センター

各小・中学校ごとに調理していた学校給食が、衛生管



学校給食センター

理・献立調理の専門化・経費節減等により見直され、昭和六一年四月、村立学校給食センターが新設された。当センターで調理された給食は、村内小中学校へ搬送され、児童・生徒の体位の向上、食事のマナーの養成等に大きな役割を果たしている。

一 施設・設備の充実

年度	内 容
昭和62	給食積み降し用ひさし取り付け
平成元	スプリン・フォーク購入、業務用冷凍冷蔵庫購入
63	センター天窓・水道修理、電子レンジ・テレビ・ビデオ購入
2	コレール食器・井購入
3	ステンレス保温食缶・角ペット・グラスファイバのトレイ購入、洗濯機・乾燥機購入、アイロン・アイロン台購入
4	センターフード換気扇取替、センターひさし・入口・給水管の修繕、手指消毒器・電子発酵器購入
5	給食運搬車買い替え、ガス回転釜二台入替 焼物器修繕・食器カゴ・メラミン食器購入

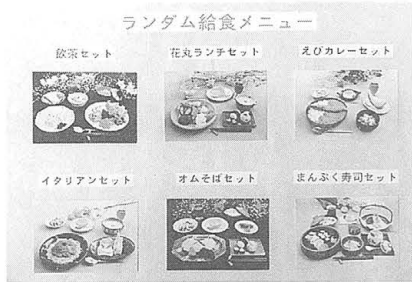
## 二 給食数・給食費

年度	昭和六	昭和五	昭和四	平成元	二
給食数(食)	三六七	三五二	三四二	三二五	三一一
給食費(円)	幼小中 (一食)	幼小中	幼小中	幼小中	幼小中
	一八四〇五	一八四〇五	一八四〇五	二二五〇五	二二五〇五
年度	三	四	五	六	
給食数(食)	三一	三〇	二九六	三〇〇	
給食費(円)	幼小中	幼小中	幼小中	幼小中	
	二二六五〇	二二六五〇	二二六五〇	二二六五〇	

## 三 給食の内容

昭和六三年一二月

バイキング給食の開始、メニューは二五種類で実施。



バイキング給食にしたつづみを打つ児童たち

バラエティーに富んだメニュー

現在のバイキング給食のメニューは五〇種類を数えるまでに充実している。

平成元年四月

先割れスプーンを廃止し、フォーク・スプーン・はしに切り替えた。

平成二年六月

コレール食器導入

平成二年七月

洋食フルコース給食の開始

メニューは、スープ・ハンバーグ・パン・サラダ、デザート・牛乳で、洋食のマナーを身につけさせることを目的に実施した。

現在のフルコース給食の

メニューは、前菜・スープ・魚料理・肉料理・パン・サラダ・デザート・牛乳で実施している。

平成四年一〇月

ランダム給食の開始

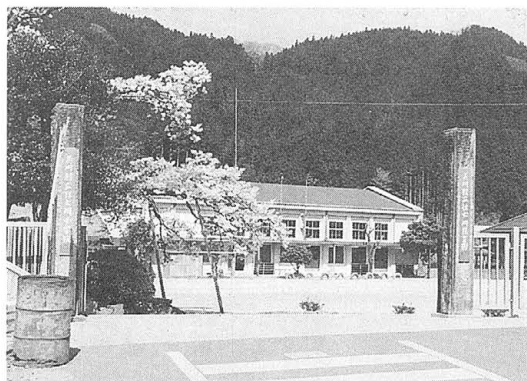
子供達が自分で選ぶことが出来る給食をめざして、六セットのメニューを、陶磁器の食器に盛り、写真入りのメニュー案内によって、当日、好みのものを選んで食事する給食を実施している。

ややもすると、マンネリ化しがちな学校給食の食内容について、昭和六二年九月以降現在に至るまで、同じメニュー料理は一度も出したことがなく、毎日違う料理のため残菜もほとんどない状態である。

更に、バイキング給食・ランダム給食によって、自分で食物の種類を選び、量を定める自主性を養い、フルコース給食によって洋食のマナーを身につけ、どこに行っても恥ずかしくない食事対応ができるようにしたいと努めている。

#### 第四節 各学校の沿革

##### 一 仕七川小学校



仕七川小学校

明治二五年に仕七川村の鷹森小学校として開校されてより今年で一〇二年目をむかえる。昭和五九年までの本校のあらましについては「美川村二十年誌」「美川村十年誌」に記されているので、以後の一〇年間の歩みについてまとめる。

ここ一〇年間にも本村の過疎化はますます進み、それにつれて学校の小規模化もとどまることなく、平成五年度には、百十数年の歴史を持つ東川小学校が仕七川小学校に合併したが、それでも児童数は四〇余名であり、複式学級一つを持っている。

#### (一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六一	テレビ取付（音楽室・職員室） 南校舎二階サッシ取付け
六二	ストロブ各校舎（教室）取付け ピアノ搬入 ワープロ購入 北校舎ベンキ塗装 南校舎サッシ取付け 焼却炉完成

年度	内容
平成	校外活動俳句教室(面河溪) フィールドワーク遠足開始 子供俳句教室(大宝寺) 俳句教室名所探訪(面河溪) 老人と子供の交流会 道後小児童交流会 PTA親子キャンプ(校内)開始 少年消防クラブ結成 郡小中学校生活科研究大会 創立百周年記念行事 少年消防リーダー研修会参加(ふるさと村)
四	
三	
二	
一	

(二) 主要行事

平成	国道四九四号線道路拡張のため校内の植樹移転 講堂の舞台そで幕取付け(学校林管理委員会寄贈) 南校舎塗装工事
三	校門拡張 附近整備 校名碑取付け
二	創立百周年記念行事として記念碑建立 校門附近植樹
一	校長室応接台購入 音楽室ピアノ新調 校内放送施設整備 小鳥等、小動物飼育小屋新調(学校林管理委員会寄贈)
五	

年度	内容
平成	四年度東川小・仕七川小校長兼任 創立百周年記念行事として
四	(一) 記念式典 (二) 記念碑建立と記念植樹 万国旗・講堂敷物 (四) 校長室応接台 (五) 北校舎模型 (六) 校旗新調 (七) 祝賀会 式場紅白幕 (八)
五	東川小統合により、児童は仕七川小に通学することになる。(当分はタクシー・バス)

(四) 特記事項

年度	内容
平成	全国木工コンクール文部大臣賞受賞
五	全国学生俳句大会団体準優勝(五名一組) 個人特選 (一) 入選 (一) 佳作 (三)

(三) 表彰関係

五	東川小合併行事 少年消防サミット参加(久万産業文化会館) 少年消防キャンプ参加(東予・宮窪町)
---	---

## 二 東川小学校

児童数の減少が続ぎ、昭和五〇年度は四三名、昭和六〇年度は二一名、平成三年度には三名となり、後年においてもこの状況に大きな変化は望めなくなってきた。

平成四年二月、東川小学校校区住民による東川小学校統合推進委員会より統合及び統合に伴う要望についての陳情があり、同年六月定例議会で趣旨採択され、九月定例議会で平成五年三月三日をもって東川小学校を閉校とする美川村公立学校設置条例の一部を改正する条例が原案可決された。

明治九年創設以来一七七年の歴史を閉じ、平成五年四月一日、仕七川小学校へ統合した。

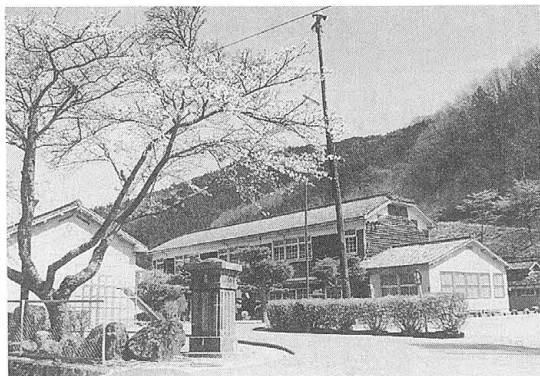
### (一) 施設・設備の充実

年度	内容	容
六二	講堂床補修及び塗装	
六三	講堂窓格子工事	
平元	理科室塗装、職員室・理科室黒板張替 低学年教室床張替	
二	講堂床補修・南校舎東側窓修理 講堂とい修繕	
三	学校住宅用水道の新水槽完成 西便所わたり廊下雨よけ工事完成 講堂屋根ふきかえ工事 焼却炉完成	

### (二) 主な行事

年度	内容	容
六〇 平四	村内小・中学校研究大会 五・三・二八閉校式	





旧東川小学校

東川小学校は、明治九年三月二十七日、東川本組東泉寺に創設され、爾來百十七年の歴史を誇る村内有数の小学校である。

一貫した建学精神のもと、知・徳・体の調和のとれた教育を実践し、その間、千四百余名の心身共に優れた人材を輩出して来た。

全盛期には、二百名を超える児童を擁し、複式教育及びへき地教育の先進校として他校の範となり、数多くの参観者の訪問を受けるなど、その実績は広く高く評価された。

昭和二十一年の児童数二百四十四名をピークとして、地域の動勢と共に児童数は激減し、平成四年度には僅か三名の在籍となった。この期に至り、児童の教育効果等を考慮し、惜別の念耐え難くも遂に仕七川小学校への統合を英断した。

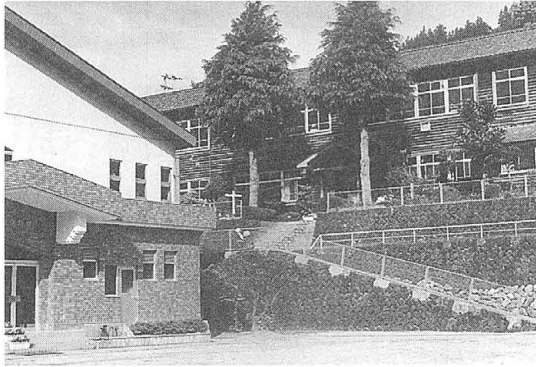
ここに、その光輝ある歴史と伝統を称え、記念碑を建立する。

平成五年三月吉日

碑

文

### 三 黒藤川小学校



黒藤川小学校

この一〇年間は過疎化・高齢化の波も一定の安定を保ち児童数の変動はあまり見られない。  
 学級数は、三クラスから四クラスで、常に複式学級を二つか三つ持っている。教職員も六人か七人で構成する極小規模の学校である。今後ますます児童数は減少していく事が予想されている。

この一〇年間の具体的な推移の状況を記しておく。

年 度	昭和六〇	六一	六二	六三	平成元	二
児童数	一九	一六	一七	一九	一四	一八
学級数	三	三	三	四	三	四
教員数	五	六	七	七	六	七
年度	三	四	五	六	(七)	
児童数	一七	二〇	一九	一七	一七	
学級数	四	四	四	四	四	
教員数	七	七	七	七	七	

#### (一) 施設、設備の充実

年度	内 容
六〇	美川村三中学校統合により、元黒藤川中学校校舎に移転

第4編 教育・文化

六一	給食センター方式に移管
六二	小学校旧校舎取りこわし、運動場拡張 体育館新築落成
平元	校舎西側給食道設置、運動場歩道設置・整備 通学用ガードレール設置 水道パイプ取り替え コピー機購入
二	六年教室床張り 体育館ステージ照明取付け ビデオカメラ購入 全自動印刷機購入
三	五年教室床張り 体育館南側防護ネット取替え TV、ビデオデッキ購入
四	児童用玄関改修 一階廊下側面塗装 三年教室の床板張り替え 防球ネット新設
五	駐車場整地 一年教室床板張り替え 二階廊下側面塗装 便所改築（水洗化）

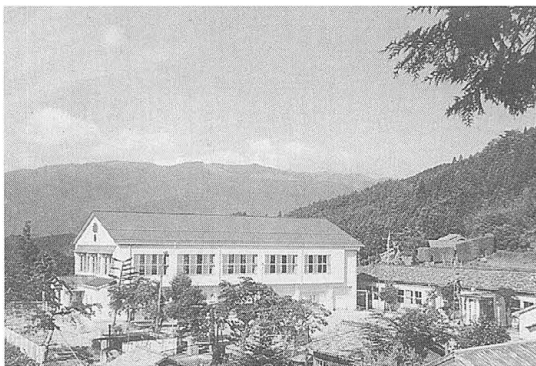
年度	主な行事	容
六〇	水泳教室（御三戸プール） 岩城村との交流学習（夏と冬） 創立百十周年記念式典	
六一	管内大会事前研究会 岩城小との交流学習（夏と冬）	
六二	交流学習（仕七川小） 交流学習（美川西小） 臨海学校（中島町姫ヶ浜）	
六三	松山教育事務所計画訪問 臨海学校（中島）	
平元	村内小学校交流学習（仕七川小） 岩城小との交流学習 第一回バイキング給食 管内大会事前研究会 岩城小交流学習（夏と冬） 郡教育研究大会	
二	村第一回交流学習（仕七川小） 第二回村交流学習（美川西小） 岩城小との交流学習（夏と冬） 美川村PTA研究大会	
三	三世代交流参観日、バイキング給食実施 村内交流学習（仕七川小）	
四	村内交流学習	
五	岩城小との交流学習（夏と冬） 村内交流学習	

(三) 表彰等

年度	内容
六二	木工作品コンクール金賞 全国木材組合連合会
平元	久万郷磨き丸太づくり 優秀賞 愛媛県知事 伊賀貞雪

現在の校舎は、昭和二七年二月に黒藤川中学校として建築され、昭和六〇年度末まで中学校として使用した。昭和六一年度美川中学校発足と同時に、現在の校舎に黒藤川小学校が移転して現在に至っている。

年々減少を続けて来た児童数、……衰勢の感がないでもないが、子供たちは明るく純朴、地域の人々も人情豊かで学校への協力を惜しまない。この黒藤川小学校に寄せる地域住民の熱い思いは、昔と変わりが無い。児童、教職員一丸となって、すばらしい歴史と伝統を継承、発展させていきたい。



二篁小学校

#### 四 二篁小学校

このたびの美川村誌（第三巻）の編纂にあたり、二篁の古きをたずねて新しきを考えてみた。二篁校区は、歴史的には土佐街道猿楽に、松山札の辻から一二里の里塚などを持ち、双生矢竹が自生する旧跡もある。また、源三位頼政にまつわる伝説なども多い地区であるが、農山村の過疎化への波をもろに受けた、村内でも進行の早い典型的な過疎地区でもある。

現在の地域人口に対する児童の割合は四・二パーセントに過ぎない。逆に六五歳以上の老人の占める割合は三九パーセントにもなっている。しかし、明治二六年三月に、宮成尋常小学校二篁分校場で卒業証書授与式が行われて以来、実に一〇三年、卒業生総数も一〇〇〇名を超えている。

この歴史ある二篁小学校で、平成六年度の児童七名は、郷土二篁の自然と地域愛の庇護のもと「自ら学び、思考し、判断して行動できる」、二一世紀の世界を視野に入れた有能な人になることを目指して、郷土愛と向学心に燃えながら日々の学習に励んでいる。

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六二	運動場照明七基増設
六三	東校舎運動場側、サッシ窓に改修
六三	水源池、タンク設置と貯水槽工事
平成一	給食運搬道路コンクリート舗装
二	国旗掲揚台鉄製に改修
四	学校敷地拡張
四	教員住宅二棟新築
五	本校舎北側、サッシ窓に改修
	第二水源池増設
	体育館 落成
	焼却炉 新設

(二) 主な行事

年度	内 容
六二	ぞうりばき学校生活開始
平成一	小学生柔道教室開始
四	村内保・幼・中合同研修会会場 上浮穴郡教科等(複式)研究会会場 黒藤川校区、校外補導連絡協議会会場

(三) 表彰等

年度	内 容
平成五	矢竹愛護班 郡表彰

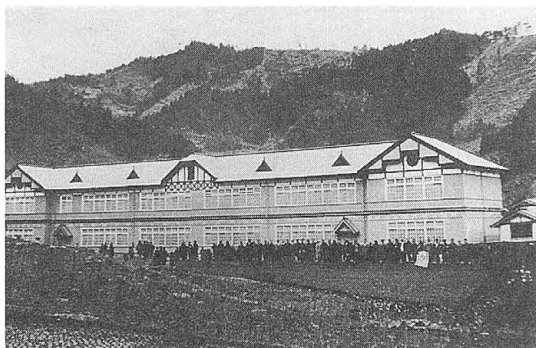
昭和五七年度から教頭不在が六年間続き、五九年度からは校長も黒藤川小学校と兼任であった。しかし、昭和六一年度からは児童数も六名となり、専任校長も赴任した。その後徐々に増えて、平成三年には一三名となったが、再び減少しはじめ、平成六年度はついに七名となり、教頭も不配置となった。今後も児童数の減少は続くものと推測される。

このように極小規模校の教育について最も懸念されることは、小学校の発育過程において必要な「切磋琢磨」の学習が不十分になるということである。そこで、多くの人々の価値観を認め合い、自分の主張も明確にする人間社会の「生き方」を学び取るために、交流学習を取り入れて、より多様な体験ができるように心がけている。

今後は更に、児童一人ひとりが持っている豊かな個性と、素直で純朴な人間性が社会への貢献と、本人の生涯学習に生かせるよう、個と社会との調和のとれた人間づくりを目指して児童・教師・地域社会が一体となって努力していきたい。



五 美川西小学校



美川西小学校  
昭和2年新築当時

昭和六〇年代と平成の年代の一〇年間の歩みで、特筆すべきことは、美川少年太鼓の新設と給食棟の大改修という二つであろう。

美川少年太鼓は、平成三年度に村当局の御配慮により大小の和太鼓と張太鼓の一二个を本校へ設置していただいた。運動会や村文化祭で児童たちが演じている姿は、実に勇壮であり、感動を覚える。情操教育と郷土の伝統文化の継承と発展に役立つものと信じている。

給食棟の大改修は、財政多端のおり村当局の御高配による多額の出費をいただき、また、校区の方々からの杉丸太材の御寄附と改修工事の勤労奉仕によって、今のようないろいろ美しいログハウス形式の建物となった。

村当局と校区の方々には心からお礼を申しあげたい。

(一) 施設・設備の充実

年度	内 容
六〇	校舎東土手修理
六一	テレビ配線工事完了・校内放送配線修理
六三	丸太ランド着工・校舎前排水溝改修工事
平元	運動場の金網柵設置

二	二階北側窓アルミサッシに取替え 運動場フェンス工事
三	一階教室内部塗装・一年教室床張替え 給食棟外装工事（ログハウス形式）完了
四	東西階段全面塗装・理科室床張替え 二階廊下全面塗装・図書室と保健室床張替え 南側石垣のコンクリートによる補修
五	児童用パソコン購入（本村導入の実験校）
六	

(二) 主要行事

年度	内 容
平元	郡小学校国語研究会会場校
二	村PTA研究大会会場校
三	松山管内複式学級学習指導講座会場校
四	郡小学校教科等研究会（特別活動）会場校
五	村保・幼・小・中合同研究会会場校 一泊二日スキー体験学習（三年生以上）

(三) 表彰等

年度	内 容
六二	県PTA連合会より優良PTAとして受賞
平四	県地域生活文化研究発表で最優秀賞受賞

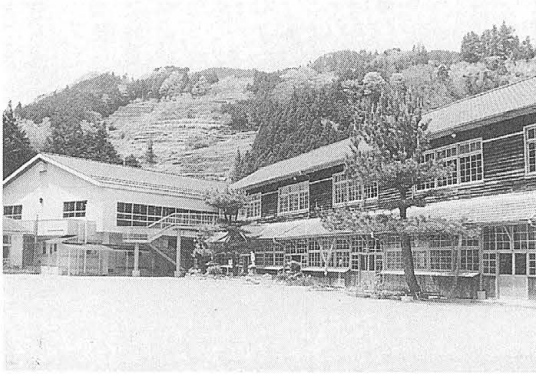
(四) おわりに

平成四年度から全面実施の新指導要領に基づき「社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成」をねらいとして「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実」に努めている。新学力観に立って、生涯学習の基盤づくりに全教職員が一丸となって当たっている。幸いなことに、校区の方々の御理解と積極的な御協力と御尽力を得ており、学校週五日制による毎月第二土曜日の休業も定着して、児童たちは有意義な生活を送っている。





六 美川南小学校



美川南小学校

明治一一年に開校した本校は、百十数年の歴史と伝統を有している。昭和一七年五月に現在地に新校舎が落成した。当時の児童数は三四三名と多くを数えている。

その後の児童数の推移をみていくと、終戦直後の昭和二〇年が二七一名、四〇年が二〇二名、六〇年が二四名と急激に減少してきた。昭和六〇年代の一〇年間は、一時的に児童数の減少が止まり、平成六年度現在、三二名となっている。しかし、これからは、年々減少が激しくなり、ごく小規模化していく見通しである。

こうした状況の中で、小規模校のよさを生かし、個に徹する教育、二一世紀に向けてたくましく生きていく児童の育成を目指した教育が、力強く展開されている。

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
六〇	校舎二階廊下床張り替え
六一	校舎一階校長室・職員室、五・六年教室床張り替え
平元	プレハブ倉庫設置 水道濾過槽設置 図書室の床・腰板の張り替え 校舎西側一・二階計三教室分解体、体育館落成(平

二	成二年二月二四日) 校庭東側、金網フェンス設置 水道用ワイヤー・ホース取り替え 水道用沈澱槽新設
三	音楽室・家庭科室改修工事(床・天井の張り替え・支柱撤去)
四	校舎一階廊下及び階段の床板張り替え 音楽室に暗幕設置、校舎出入口アルミサッシ化、水道浄化砂洗場設置
五	校長住宅新築 三・四年教室、廊下揭示板クロス張り 校舎から体育館への渡り廊下屋根設置 上水道用井戸新設工事

(二) 主要行事

年度	内 容
六〇	同和教育指導訪問
六三	複式学級学習指導講座 上浮穴郡複式研究会
平元	松山管内大会事前研究会 郡教科等(体育科)研究会 村保幼小中合同研究会
二	へき地学校訪問(義務教育課)
三	学校林現地調査(P.T.A)

四	郡教科等(算数科)研究会 サマースタール(愛大児童文化研究会)
五	矢淵トンネル開通式鼓笛パレード 第一回サマーキャンプ

(三) 特記事項

昭和六〇年代の本校での特筆すべきことは、まず、体育館の建設ということであろう。学校及び地域住民の長年の念願であった体育館が、村当局の英断と地域住民の協力ののもとに、平成二年二月二四日に落成した。それ以来、学校行事や体育活動にフルに活用され、社会体育の発展にも大きく貢献している。

平成五年の台風四号のため、これまで取水していた水源が土砂で埋まり使えなくなった。村当局の温かいご配慮により、平成六年四月に井戸が新設された。これまで水の確保に悩まされつづけていただけに、この井戸の新設は望外の喜びである。

第4編 教育・文化

六〇	年度	新居田久	歴代校長氏名	職員数	学級数	男	女	計	児童・生徒数
六一	伊賀上美智子								
六二	秋川	〃	〃	三三三	二二二	二二	四四	六八	
六三	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
六四	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
六五	平元	秋川修	篠原豊	四四四	三三三	二二	三三	七	
六六	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
六七	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
六八	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
六九	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	
七〇	〃	〃	〃	四四四	三三三	二二	三三	七	

東川小学校

六〇	年度	相原俊雄	歴代校長氏名	職員数	学級数	男	女	計	児童・生徒数
六一	〃								
六二	〃	〃	〃	七七	四四	一九〇	二六	二八	
六三	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六四	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六五	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六六	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六七	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六八	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
六九	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	
七〇	〃	〃	〃	八八	五五	二〇	二四	四五	

仕七川小学校

六〇	年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	男	女	計	児童・生徒数
六一	米子安男							
六二	大原忠明	〃	三三三	二二二	四四	二二	六三	

二箇小学校

六〇	年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	男	女	計	児童・生徒数
六一	米子安男							
六二	〃	〃	六六	四三	一一	一一	一七	
六三	〃	〃	五五	三三	一一	一一	一七	
六四	〃	〃	六六	四三	一一	一一	一七	
六五	〃	〃	七六	四三	一一	一一	一七	
六六	〃	〃	七七	四三	一一	一一	一七	
六七	〃	〃	七七	四三	一一	一一	一七	
六八	〃	〃	七七	四三	一一	一一	一七	
六九	〃	〃	七七	四三	一一	一一	一七	
七〇	〃	〃	七七	四三	一一	一一	一七	

黒藤川小学校

四	(閉校以後)	〃	三	二	二	一	三
---	--------	---	---	---	---	---	---

六〇	六一	六二	六三	平元	二	三	四	五	六	年度
水田敏廣	井上勝美	森建次郎	水木寛	〃	〃	〃	〃	〃	〃	歴代校長氏名
七	七	七	七	七	七	七	八	九	八	職員数
四	四	五	五	五	五	五	五	五	五	学級数
一八	一六	一八	一六	一五	一八	一七	二〇	一六	一三	男
一七	二一	一九	二〇	一六	一七	一九	一五	一七	一九	女
三五	三七	三七	三六	三一	三五	三六	三五	三三	三二	計

美川西小学校

六三	元	二	三	四	五	六	年度
篠原豊	青野昌弘	坂井壤二	〃	〃	〃	〃	歴代校長氏名
四	四	四	四	五	四	三	職員数
三	三	三	三	三	三	二	学級数
一六	一七	一六	一四	一四	一四	一三	男
一五	一六	一七	一六	一五	一五	一五	女
一一	一二	一〇	一〇	九	七	七	計

六〇	六一	六二	六三	平元	二	三	四	五	六	年度
篠崎嘉一	森岡春夫	川口仁	中島博文	〃	〃	〃	〃	〃	〃	歴代校長氏名
六	六	七	七	七	七	六	六	八	八	職員数
三	三	四	五	五	五	四	四	五	五	学級数
一三	一七	一八	一七	一八	一九	一八	一六	一六	一三	男
一	七	五	二	一	二	三	五	八	九	女
二四	二四	二三	二四	二九	三一	三一	三一	三四	三二	計

美川南小学校

七 中 学 校

美川村の中学校は、昭和六一年度より統合校美川中学校としてスタートした。そのため仕七川・黒藤川・美川中央の各中学校については、『美川村十年誌』に続く昭和六〇年度だけで、以後は美川中学校となる。

仕七川中学校

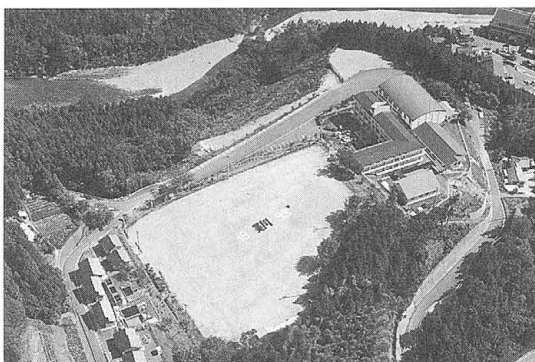
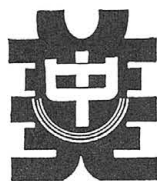
年度	施設・設備	主要行事	表彰等
六〇	ワープロ購入	郡教科研（英語・美術） 仕七川中学校 閉校式	

黒藤川中学校

年度	施設・設備	主要行事	表彰等
六〇	校舎内ベンキ 塗装 黒藤川中学校 閉校記念碑建 立	黒藤川中学校 閉校式	郡新人大会卓 球女子団体優 勝

美川中央中学校

年度	施設・設備	主要行事	表彰等
六〇	美川中学校統 合校舎・若竹 寮落成	美川中央中 学閉校式	優良PTAと して文部大臣 賞受賞



美川中学校

美川村の中学校生徒数は、昭和三〇年代半ばをピークとして年々減少し、昭和四九年には村内三つの中学校の統合の声があがった。その後も生徒数の減少は続き、昭和五九年に再び統合の声がもち上がり、行政側の積極的な説明会等の努力により、村民の同意を得て統合に踏み切った。昭和六一年三月鉄筋三階建て校舎と寄宿舎が落成し、昭和六一年度より統合校美川中学校がスタートした。

統合校発足に対して昭和五九年度から三つの中学校長が校舎の配置・校訓・校章・校歌の制定等を話し合い、準備を重ね、整った環境のもとでスタートができた。

#### 校訓

自主 統合中学校のため村内の全生徒が協同  
協同 し、夢をもって主体的に活動することを  
創造 願って決定する。

校章 (図案作者 谷本凱正)

美しい緑の山ふとに抱かれた美川中学校。三本の円弧は美川の「川」を意味している。

第4編 教育・文化

美川中学校校歌

作詞 玉井時廣

作曲 猪上哲史

Moderato

み み だ を の ぞ む お か の う え  
 そ び え る こ う し ゃ ひ に は え て せ  
 い き あ ふ る る わ が ぼ こ う じ  
 し ゅ こ う じ ょ う の い き た か し  
 は ば た き ゆ か ん み か わ ち ゅ う

美川中学校校歌

作詞 玉井時廣  
 作曲 猪上哲史

一 御三戸を望む 丘の上  
 そびえる校舎 陽に映えて  
 生気あふるる わが母校  
 自主向上の 意気高し  
 はばたきゆかん 美川中

二 大川嶺に 雲はしる  
 録の大地 美しく  
 睡みて学ぶ わが母校  
 協同の輪は いや回く  
 守りてゆかん 美川中

三 清き流れの 面河川  
 四季とりどりの 幸うけて  
 英知を磨く わが母校  
 創造の意志 湧きいずる  
 ああ伸びゆかん 美川中

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内	容
六一	校旗寄贈 ストックハウス一棟増設（運動場） 街灯（防犯灯）四基設置	
六二	ストックハウス二棟新設（技術室北側） 倉庫新設（格技場横） 体育館前自転車置場（車庫）新設 変電設備省エネ改修工事 職員駐車場ライン引き 電話取り替え プール塗装 避雷針設置	
平元	運動場周辺防球フェンス工事 美川中学校教員住宅落成（単身者用二、世帯者用二） 学校環境緑化事業（桜の苗木三〇本植樹） 体育館屋根塗装 体育館フロアー部分修理	
四	武道館落成 学校環境緑化事業（サザンカ苗木二〇本、ツツジ苗木二〇本植樹） 教員住宅落成（単身者用二、世帯者用一） 体育館トイレ修理	
五	教員住宅落成（世帯者用四）	

(二) 主要行事

年度	内	容
六二	郡教科等（理科・特活）研究会 昭和六二・六三・平成元年度文部省指定武道推進 研究発表会	
平元	郡教科等（国語）研究会 郡教科等（体育）研究会 郡教科等（美術）研究会 伊予中学校との交流学习（スキー場）	
五		

(三) 表彰等

年度	内	容
六二	非行防止宣言優良校表彰 郡総体 剣道女子団体優勝	
六三	愛媛県へき地優良校表彰 郡新人大会 剣道女子団体優勝 中予新人大会 剣道女子団体優勝 郡総体 剣道女子団体優勝	
平元	保健体育指導研究文部省表彰 郡新人大会 野球・バレー女子優勝	
五		

美川中学校

年度	歴代校長氏名		職員数	学級数	児童・生徒数	
六一	玉井 時廣		一一二	三	四八	男
					六四	女
					一一二	計



第4編 教育・文化

六〇	玉井 時廣	一〇	三	二四	三一	五五
美川中央中学校						
六〇	青井 勇	七	三	六	一九	二五
黒藤川中学校						
六〇	宮田 良一	八	三	二五	一八	四三
年度	歴代校長氏名	職員数	学級数	児童・生徒数		
				男	女	計
六二	仲川 達郎	一一	三	四九	五三	一〇二
六三	平元	一一	三	四三	四四	八七
二	大野 久志	一一	三	二八	三七	六五
三	武市 一敏	一一	三	三一	三七	六五
四	〃	一一	三	二七	四〇	七七
五	〃	一一	三	二四	四〇	七七
六	〃	一一	三	三〇	四四	八七
		一三	三	四九	五三	一〇二

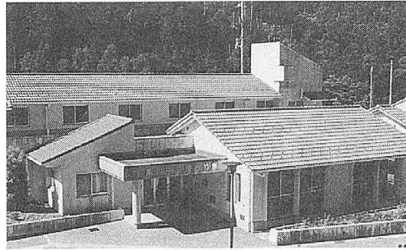
美川中											中		美川中央		黒藤川中		仕七川中		卒業生の進路状況
5	4	3	2	元	63	62	61	60	59	60	59	60	59	60	59	年度			
15	19	21	24	31	31	39	43	20	18	8	11	15	19	15	19	生徒数			
6	7	7	11	14	13	14	13	9	5	1	4	12	7	7	7	進学			
7	11	12	11	15	10	18	24	9	8	4	3	3	11	11	11	就職			
13	18	19	22	29	23	32	37	18	13	5	7	15	18	18	18	家事			
1	0	2	1	2	2	3	2	1	4	0	2	0	1	1	1	学校			
0	0	0	1	0	6	4	3	1	1	0	2	0	0	0	0	各種			
1	0	2	2	2	8	7	5	2	5	0	4	0	1	1	1	定時制			
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計			
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計			
1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	計			
0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	計			

## 八 美川中学校若竹寮

昭和六一年度統合校美川中学校の開校とともに、遠距離生徒のための寄宿舎、若竹寮が給食センター横に付設された。

面積 五四〇・一二平方メートル  
 舎室 一〇室  
 入寮生徒数

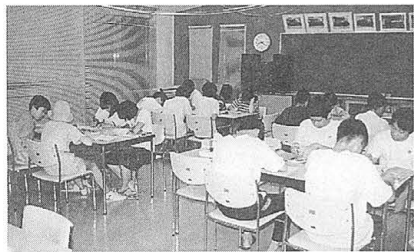
年度	入寮生徒数	寮
昭和六一	二〇	中川 富士子
六二	二一	〃
六三	二二	〃
平成元	九	〃
二	九	〃
三	〇	〃
四	一三	〃
五	一三	〃
六	一八	〃



若竹寮全景



楽しい食事風景



学習の時間

入退舎規程は次のとおり

入退舎規程

(美川中学校寄宿舎「若竹寮」)

(趣旨)

第一条 美川中学校寄宿舎「若竹寮」の入退舎については、美川村学校管理規則に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(収容人員及び期間)

第二条 美川中学校寄宿舎「若竹寮」の定員は二〇名とし、夏季冬季学年末及び学年始の学校が休み中は原則として閉舎する。

(入舎生の対象範囲)

第三条 美川中学校寄宿舎「若竹寮」に入舎できる者は、美川中学校の生徒で、自宅からの通学距離が八km以上の生徒又は、教育委員会が特に入舎を必要と認めた生徒とする。

(入舎手続)

第四条 美川中学校寄宿舎「若竹寮」に入舎を希望する生徒の保護者は、美川中学校長(以下「学校長」という)を経て、別記「入舎願」を教育委員会に提出し入舎の許可を受けなければならない。

(退舎)

第五条 退舎は原則として、入舎の年度は認めない。ただ

し、特別な事情がある場合は、この限りではない。

2 退舎を希望する生徒は、学校長を経て願書を教育委員会に提出し、許可を受けなければならない。

3 寄宿舎「若竹寮」の秩序を著しく乱す入舎生については、学校長は教育委員会の承認を得て退舎を命ずることが出来る。

附則 この規程は、昭和六二年四月一日から施行する。

### 第三章 社会教育

二一世紀に到達しようとする今日、高齢化の進行や、生活水準の向上、自由時間の増大とともに、人々は生活



上浮穴郡社会教育研究大会  
上浮穴郡公民館研究大会

の楽しみや生きがいを求め、心豊かに生きたいと考えるようになってきた。

精神的・文化的充足を求めて、その生涯の各時期に応じた多様な学習に、自主的に取り組む傾向を強めるとともに、情報化・高度技術化・国際化などの激しい社会変化に対応し、絶えず新しい知識や技術を学んでいく必要性も増している。

人生八〇年時代を迎え、豊かな人間性と真の生きがいを求める人々の願いに基づき、活力に満ちた地域社会づくりを進めるために、社会教育の果たす役割は重要であり、生涯学習の時代といわれる現今、本村においても、村づくりは人づくりにあるという理念のもとに、公民館活動を始め、各種社会教育関係団体の育成・活性化に努めてきた。

#### 第一節 公民館活動

公民館は、中央公民館と村内六地域公民館により、活動が続けられている。

公民館の主な活動は、運動会、学習・芸能発表会、盆踊り大会、カラオケ大会、三世代交流事業など文化的なものや地域の交流につながるもの、ソフトボール・バレーボール・卓球などのスポーツ活動、更には、青年学級・婦人学級活動など学習を意図した活動であり、それぞれの公民館において特色ある地域活動がなされている。

公民館は、生涯学習の拠点として、情報収集やコミュニケーションを図る場として、また、施設・備品の効果的は活用を図りながら、連帯意識を高め、心の通い合う豊かで住よいふるさとづくりに努めている。

美川村公民館長

氏名	期	間
新谷 養一郎	五〇・六・二三	三・七・三一
仲川 達郎	三・八・八	現在

社会教育主事

氏名	期	間
高橋 裕	五九・四・一	六二・三・三一
小椋 清隆	六二・四・一	三・三・三一

浜田 晴 幸一三・四・一 現在

美川村公民館主事

氏名	期	間
猪上 定幸	五八・四・一	六一・三・三一
高橋 房俊	六一・四・一	六三・三・三一
林 克也	六三・四・一	五・三・三一
坂本 耕紀	四・四・一	六・三・三一
高岡 政明	五・四・一	現在

美川村公民館副館長

年	氏	名
六〇	米子	安男
五五	小椋	伊十郎
六一	玉井	時廣
六三	正岡	剛
六三	大原	忠明
三	森	建次郎
四	西口	武志
四	篠原	武豊
五	中島	博文
六	坂井	壤二



## 一 生活改善運動

公民館活動の一環として、日常生活の中から無理・無駄をなくし、相手に物を贈ることよりまごころを伝えようとの発想で、あらゆる運動が展開された。

冠婚葬祭の簡素化、お見舞い返しや香典返しの廃止、花輪・弔旗の廃止などを呼び掛けるとともに、愛媛県連合婦人会等の推奨する、簡易な祝儀・不祝儀袋の普及、会費制結婚式披露宴の推進、日常生活の改善など、生活改善運動の趣旨を啓発し、実践に努めてきた。

## 二 夏季大学

昭和四七年から始められた夏季大学は、講座形態に変化を見ながら、毎年開講されてきた。

六〇年には、一会場三夜方式で、情報化社会におけるメリット・デメリットについての講演会をもった。

平成二年より、夏季大学の一環として、国の保健施設事業としての講座「健康大学」を開講し、中央の講師を

招き、多くの村民が聴講した。

平成二年 漫才師・海原小浜師匠の「思いやりこそわが人生」と題しての講演。

平成三年 落語家・三遊亭小遊三師匠の「私の修業時代」と題しての講演。

平成四年 フリーアナウンサー・小林完吾氏の「今、親として…」と題しての講演。



健康大学

平成五年 女優・野添ひとみ氏の「愛するものたちに  
教えられた・健康ってすばらしい」と題しての講演。

「健康大学」開講に伴い、各種保健事業の充実と村民  
の健康づくりにも役立っている。

### 三 高齢者大学

近年における、自由時間の増大や心の豊かさ、文化  
志向の高まりの中で、村民の生涯学習に対する期待と関  
心は、ますます高まってきた。

本村においても、高齢者の学習会として、昭和四七年  
から「老人大学」が開設され、昭和五四年から「高齢者  
大学」に名を改めて、村内の老人クラブ（六五歳以上）  
を対象として開催している。

年間三回開催している同大学は、郡内あるいは、松山  
市近郊から講師を招き、人文社会・芸術文化・スポー  
ツ・レクリエーション・趣味等、幅広い分野から講演を  
開き受講している。

また、三回開催している研修会の二回目については、  
村内の小学校体育館を利用し、三か所を巡回するかたち

で、それぞれ二つの団体老人クラブを対象として開催し  
ている。この時は、講師の講演の後、簡単なレクリエー  
ションやゲームで交流を深めており、高齢者には大変好  
評を得ている。

年間三回全てに参加した受講生には、修了証と記念品  
を贈っている。

高齢者の地域に果たす役割は大きく、一人ひとりが生



美川村高齢者大学



きがいをもち、健やかに、そしてまた、積極的に何事にも取り組んで行けるようにと、受講生は意欲旺盛である。

#### 四 同和教育

人は、すべて生まれながらにして、自由と平等であり、人間として尊ばれ、人間として生きる権利を有している。

しかし、現実には、日本国民の一部の集団が、社会の歴史的発展の過程において形成された、身分階層構造に基づく差別により、経済的・社会的・文化的に低位の状態におかれ、これらの権利が、完全に保障されていないという問題が存在している。

同和教育が、現代社会においてもなお未解決のまま残され、更に、部落差別が再生産されている基本的な原因は、国民の同和教育に対する正しい認識が不足していることと、人間尊重を基盤とする民主主義が、まだ徹底していないことにあると考えられる。

本村においても、同和教育の解決を、国民的課題とし

てとらえ、昭和四九年に発足した、村同和教育協議会を推進機関として、また、平成三年より新たに選任された、同和教育推進主任を中核として、学校教育の中での学習、社会教育の中での啓発活動を継続している。

校区別同和教育懇談会での啓発活動・社会教育関係団体の学習活動・県の同和教育指導訪問等による学習、平成五年からの同和教育モデル地域指定事業による学習など、啓発学習活動を展開している。

### 第二節 幼児教育

昭和三二年に、実験学級としてスタートした幼児教育は、年間三〇〜三五回の開設予定で行われた。次の段階では、隔日保育から全日保育へと急速な高まりをみせ、一〇〇パーセントに近い就園率で保育がなされて来た。

県教育委員会の指導もあり、美川西保育園が昭和五六年から幼稚園となる。他の保育園においても、幼稚園と同様教育課程を編成し、いっそう幼児教育の深まりが

みられるようになった。

平成二年度より、幼稚園教育要領の改訂が行われ、本村も幼児教育関係者の手で、教育課程が編成され、保育がなされている。

急激な幼児の減少に伴い、昭和六〇年度には、東川保育園が休園となり、続いて、平成四年度には、二箇保育園も再度休園となる。しかし、平成五年度・六年度には、二箇地区に幼児がそれぞれ一名おり、黒藤川保育園に入園し、友達とのかかわりを深め、意欲的に活動している。幼児減少の中で、少しでも多くの友達とかわりをもたすことを重視し、全園合同の交流保育を、年間三回行い、隣接園との交流も深めていくようにした。

また、四園のうち、三園は、保育者一名で保育にあたっていているため、平成六年度より代替保育要員として、教育委員会に保育をおく。

仕七川保育園

年 度	園長氏名	年 度	園長氏名
六〇～六三 平元～二	相原 俊雄 団上 朝雄	三～五 六	篠原 豊 田中 寛

黒藤川保育園

年 度	園長氏名	年 度	園長氏名
五七～六〇 六一～六三 平元～二	米子 安男 仙波 忠孝 大原 忠明	三～五 六	橋本 怜 渡部喜代隆

二箇保育園

年 度	園長氏名	年 度	園長氏名
五九～六〇 六一～六三	米子 安男 大原 忠明	平元 二～三	篠原 豊 青野 昌弘

美川西幼稚園

年 度	園長氏名	年 度	園長氏名
五九～六一 六二～平元	水田 敏廣 井上 勝美	二～三 四	森 建次郎 水木 寛

第4編 教育・文化

六〇	六一	六二	六三	平元	二	三	四	五	六	七	八	九	年度
一五	一六	一四	一一	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	仕七川 保育園
五	八	四	四	八	六	六	六	五	四	三	二	一	黒藤川 保育園
六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	二育園 籠
三	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	美川西 幼稚園
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	美川南 保育園
一	三	二	六	二	一	二	二	二	二	二	二	二	計

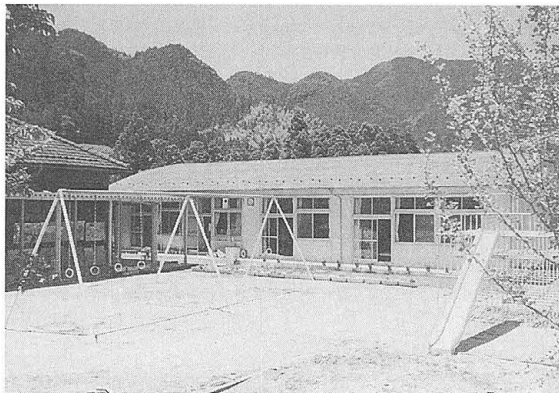
園児の推移

六三 〇〇 六二	六〇 〇〇 六一	年 度
川口 仁	篠崎 嘉一 森岡 春夫	園長 氏名
六 〇	三 〇	年 度
落合 常章	中島 博文	園長 氏名

美川南保育園

六二	六一	年 度
遊戯室壁面一部張り替え	カーテン取替(保育室・職員室)	内 容

(一) 施設・設備の充実状況



仕七川保育園

一 仕七川保育園

六三 平元	ビデオデッキ購入 巧技台セット購入 カーテン取替（遊戯室） 国道四九四号線道路拡張のため
三二	(一) 園舎移転 (二) 園舎外壁塗装 園舎内全壁面張替
五四	(三) 固定遊具新調（ジャングルジム・ つりかん・上り棒・砂場） 園舎内壁塗装 ストックハウス購入

(二) 主要行事

年 度	内 容
六三 五四	村内幼児教育研究会会場園 村内幼児教育研究会会場園（小学校生活科 と合同）

(三) 特記事項

年 度	内 容
六〇	東川保育園合併（園児二名の通園方法は定 期バス・タクシー利用） ・六〇：二名 ・六二：一名

平三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六三：二名 ・元：一名 ・二：一名</li> <li>・三：一名 ・四：二名 ・五：六名</li> </ul> 国道四九四号線道路拡張工事のため、園舎 を移転する。併せて遊具類をとり除き新調 する。
----	---

## 二 東川保育園

昭和六〇年度より、幼児数減少のため（年長二名）仕  
七川保育園へ通園するようになり、東川保育園は休園と  
なる。また、平成五年四月一日、東川小学校が仕七川小  
学校に統合となり、平成五年三月三日をもって閉園と  
なる。

## 三 黒藤川保育園

(一) 施設・設備の充実状況

年 度	内 容
平元	玄関屋根の取り付け スチール物置設置

非常ベルの取り付け

(二) 主要行事

年 度	内 容
六二	小学校体育館建設のため、保育園園舎を現地点に移動する。
平元	昭和六〇年より中止されていた二箇保育園との交流保育を再開する。(平成三年度まで)
二	トイレ臭気突の取り付け 保育室・廊下の壁紙及び掲示板のほりかえ
四	村内幼児教育研究会
五	二箇地区より園児一名入園(タクシー通園) 村内幼児教育研究会 美川南保育園と交流保育実施(年間三回)

四 二箇保育園

(一) 施設・設備の充実状況

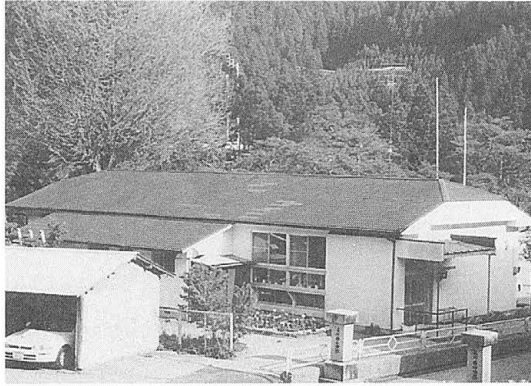
年 度	内 容
六一	室内壁面塗装
六三	保育室改修工事
平元	小学校舎から園舎に移動する。 保育園物置き設置 防犯ベル取り付け

(二) 主要行事

年 度	内 容
六一	村幼児教育研究会
平元	六〇年に中止していた黒藤川保育園との移動保育を再開
四	在籍園児なく休園

平成五年度・六年度、園児各一名は、黒藤川保育園へのタクシー通園となる。

五 美川西幼稚園



美川西幼稚園

平三	年度	美川村幼児用プール完成(御三戸)使用
	内容	

(一) 施設・設備の充実状況

五 園舎外部木部の塗装と玄関屋根の修理

(二) 主要行事等

年度	内容
平四 五	初任者研修制度による指導員が定期的に来園園児の減少により、混合学級となる

(三) 表彰等

年度	内容
平五	県国公立幼稚園PTA連合会より優良賞受賞

(四) 特記事項

園児数の減少により、混合学級となり教諭一名となる。

本村においては、本園のみが幼稚園であるため、国公立幼稚園松山支部に属し、上部組織に加入している。研究会やPTA活動において、保育園とのパイプ役である。

六 美川南保育園

(一) 施設・設備の充実状況

年度	内 容
平三	ホール壁面張替え カーテン取替え トイレ修理工事
四	砂場用具洗い場設置（PTA作業） 保育室・廊下壁面張替え
五	幼児用手洗い蛇口取替え工事

(二) 主要行事

年度	内 容
六〇	村内幼児教育研究会 父母研修講座開催
六三	村内幼児教育研究会
平二	隣接園交流保育実施（黒藤川保育園と交流）
五	

第三節 青年教育

過疎化の進む中、急激な社会の変化や青年自身のもの  
の考え方、価値観の多様化等により、青年団は大きな転  
機を迎えている。

本村の青年団活動は、平成に入り、団員は減ったもの  
の一人ひとりに声を掛け、内容のある活動にしていける  
よう活発な活動を続けている。

歴代青年団長

年度	氏 名
六〇	井上 浩光
六一	井上 浩光
六二	桜木 哲男
六三	坂口 大作
平元	坂口 大作
二	阪本 雅彦
三	大坂 勝利
四	石元 篤也
五	西森 建次
六	大柳 正博

役員会を定期的に開き、

レクリエーション・スポー  
ツ活動、各種イベントな  
ど、青年団活動でしか味わ  
えないもの、若い時にしか  
出来ない事と、色々模索し  
ながらも、同じ美川の青年  
団員としての意識の統一を  
図っている。

昭和五六年から、婦人と



若さあふれる青年団活動

青年の交流会が開催されてきたが、平成三年から交流会を「なかよし運動会」と名前を変えて、レクリエーション・ゲーム等、子供も交えて交流を深めている。平成五年度、青年団臨時総会において、分団を廃止することが決定した。各分団単位での活動は、ほとんど行われていないということが主な理由である。

現在、青年団団員は六九名である。また従来から小学校区ごとに開設されている青年学級も、活動こそ目立っていないものの、各地域の行事・イベント等で活動し貢献している。

#### 第四節 婦人教育

今日、核家族化や少子化、女性の社会進出の増加、ライフスタイルの変化等に伴い、家族や家庭のあり方、地域社会との関係などが多様化・複雑化してきている。

過疎化・高齢化、また、環境破壊が進む中で、心の通い合う豊かな地域社会の形成をめざし、地域課題解決のためには、婦人に対する期待とその果たす役割は極めて大きいものがあり、その推進母体として、婦人会が実践活動を展開してきた。

本村の婦人会は、昭和六〇年から四支部構成となり、過疎化・高齢化、また、価値観の多様化・婦人の職場進出等によって、年々会員が減少し、平成六年現在、一三〇名の会員となっている。



婦人会が、地域発展のために尽くした功績は顕著なものがあり、今後も婦人会活動に期待するものが大きいだけに、より多様な学習機会を提供し、婦人の学習意欲の高揚と、参加人数の増大を図り、婦人会の育成及び活性化に努めていくことが重要な課題となっている。

また、婦人会のほかに、村内六地域に婦人学級も開設して、地域住民として、婦人として、母親として、その資質や能力を向上させるために、多角的な学習活動を継続して実施している。

美川村婦人会長

年度	氏名	年度	氏名
五六〇	大原五月	二〇三	新谷廣子
六一〇	坂口カツ子	四〇五	安宅節子
六三〇	高橋和子	六〇	篠崎喜代子
平元	上岡辰子		

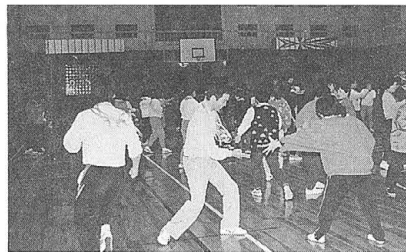
一 生活学校

村婦人会の中心的な学習活動として、毎年四〇五回開

設され、花いっぱい・クリーン運動、調理実習、木目込み人形づくり、しめなわ作り、手芸、寄せ植え盆栽、在宅看護講習、なかよし運動会などの講座を開講し、毎回三〇〇四〇人の受講生で継続的に学習を展開している。



寄せ植え盆栽講習会



なかよし運動会（婦人と青年の交流）

二 ふれあい結婚式

結婚式及び披露宴が、華美になっていく傾向が見られる中、婦人会を中心に、会費制結婚式が提唱され、昭和

五九年から相次いで挙行されてきた。

会費制と従来の結婚式の両方で挙行されてきたが、会費制への一本化を図るべく再三検討し、平成二年からは会費制に一本化されてきた。

婦人会・青年団・教育委員会等で実行委員会を組織し、運営されてきた。

会費制と従来の結婚式・披露宴の挙式数は、六〇年から五年までに、二六組、年平均約三組が挙行されている。

## 第五節 P T A

核家族化・少子化・過疎化現象に伴い、年々、児童・生徒数が減少する中で、PTA会員もまた減少化傾向にある。

PTAにとって昭和六〇年代は、激動の時代であったと思われる。

第一に、昭和六一年に、村内中学校の統合である。

第二に、平成四年九月から、月一回第二土曜日を休業

日とする「学校週五日制」が実施されたことである。

これは、子供たちに時間的ゆとりをもたらし、ゆとりある生活の中で個性をのばし、主体的に判断し行動できる資質や能力を身につけることをねらいとして実施されている。

第三に、平成五年に東川小学校が廃校となったことである。

情報化・国際化・高齢化・過疎化が進展し、学校の統合・廃校、学校週五日制の実施されている現今、心豊かで創造力のある子供・青少年の健全育成を図っていくPTAの役割や課題は大きく増大している。

毎年七月に、村PTA研究大会を開催し、会員の研修を積み重ね、県及び上浮穴郡のPTA研究大会へも各単位PTAから参加して、研修を重ねている。また、家庭・学校・地域社会が連携して、地域の実情に合ったPTA活動を展開し、青少年の健全育成を図っている。

### PTA会長

美川村PTA連合会長

年度	氏名	年度	氏名
六〇	大野 東鬼亜	六一	続木 光

第4編 教育・文化

六〇	仕七川小学校					美川中学校			P T A
	平元	六三	六二	六一	六〇	六三 平元	六二	六一	年 度
安部	中家	高橋	岡崎	坂本	山本喜三男	平柳	西村	大坂	氏 名
武	好喜	裕	滝男	勝行	章一	利一	正行	正行	年 度
元	六	五	四	三	二	六	四 五	二 三	氏 名
佐藤	小椋	高木	篠原	清水	猪上	成川	猪上	安宅	年 度
計信	周喜	俊三	逸雄	幸男	定幸	勇夫	定幸	公廣	氏 名

単位PTA会長

五九 六〇	吉中光春	六〇	大野東鬼垂	六〇	西森誠一
年度	氏名	年度	氏名	年度	氏名
仕七川中学校			美川中央中学校		
黒藤川中学校					

単位PTA会長

二	平元	六二 六三
安宅公廣	中家好喜	田野典孝
六	五	三 四
小椋周喜	猪上定幸	天野秋一

美川南 小学校			美川西 小学校			二箇小学校			黒藤川 小学校			東川小学校		
六三 平元	六一 六二	五九 六〇	平元 二	六二 六三	六〇 六一	平元 二	六二 六三	六〇 六一	二 三	六一 平元	六〇	六三	六二	六一
岡田繁行	神谷豊志	山村利一	丹波昭	木山博史	統木光	天野辰晴	久保金次郎	石川正吉	上岡正文	田野典孝	松田溜	堀田春和	中久保隆義	佐藤昌保
六 五	四 五	二 三		五 四	三 四		五 四	三 四	六	四 五		三 四	三 四	二
山本博典	栄代靖男	城山照文		瀧内光雄	天野秋一		表高一	天野健二		土居昭平	中山忠男		柳原利治	黒川満治

## 第六節 社会体育

### 一 夜間照明施設

昭和五八年に美川中央中学校（現美川中学校）のグラウンドに五基の夜間照明が設置された。

昭和六二年度には、仕七川中学校の閉校に伴って山村広場が整備され、多目的広場（八五〇〇平方メートル）にも夜間照明施設が整備された。

両グラウンドともに、シーズンを問わず、ソフトボール、サッカーボール、軟式野球と、広く社会体育の振興と、村民の体力向上に寄与している。

### 二 愛媛スポーツ・レクリエーション祭

#### への参加

上浮穴郡社会人総合体育大会で、優勝又は準優勝をして初めて愛媛スポーツ・レクリエーション祭への出場権が獲得できる。

近年では、平成五年度に、クロッケー（一般の部）が

郡大会で優勝、準優勝をして、スポーツ・レクリエーション祭に出場し、見事、準優勝と第三位の栄冠に輝いた。

この愛媛スポーツ・レクリエーション祭は、平成二年から、もとの「県民体育祭」の名称を改めて開催されている。

この大会は、ごく一部のエリートのためのチャンピオンシップスポーツが、真のスポーツであるといった偏った認識、人間の能力の限界への挑戦、勝利への追及ではなく、地域に根つきつつあるコミュニティスポーツを基礎とした、県民スポーツ・レクリエーションの柱となる大会として開催されているものである。

### 三 各種スポーツ大会の開催

バレーボールリーグ大会 昭和五〇年五月より、公民館主催のバレーボール大会だけでは物足りない、また、誰でもが参加出来る大会を、ということ、バレーリーグ大会を開催するようになった。

毎年、春と秋の二回、すべて夜間に行われており、第

三八回大会では、男子九チーム、女子五チームと多数の参加者を数えている。

しかし、ここ数年、チーム数の増減こそあまり見られないものの、チームによっては、試合当日、選手の日程調整がつかず、人数のそろわないチームも見受けられる。

秋の大会については、平成五、六年と女子の部だけで開催された。ちょうど農繁期、他の行事と重なり、加えて練習不足等で、選手の日程調整がつかないといった理由から、男子の部は現在休止の状態である。

公民館ソフトボール大会 一〇月一〇日の体育の日の記念行事として、昭和五四年から公民館主催で毎年開催されている。

この大会は、広く村民の間にソフトボールを普及し、スポーツ精神の高揚と、村民の体力の向上を図り、生活を明るく豊かにし、村づくりの一助とする事を主目的としている。

チーム編成については、各公民館ごとでチーム編成をし、試合中グラウンドでプレーできるのは一〇代、二〇代は三名、三〇代は三名、四〇代以上は三名として年齢を

制限し、だれでも参加出来る大会運営にしており、村内各種スポーツ大会の中でも最多参加者を数えている。

バドミントン大会 昭和五五年四月より、誰にでも手軽に楽しめるバドミントンを、広く普及させ、家族ぐるみのスポーツ化をめざすことを主旨とし、毎年開催している。

平成五年度第一三回大会では、男子は二二名、女子は八名と、参加者の固定化と減少が見られ、近年やや低調きみである。

クロッケー大会 昭和五五年ごろから、村内各地域でクロッケーが盛んに行われるようになり、昭和五七年に第一回クロッケー大会が開催された。

日々の練習の積み重ねの甲斐あって、村内のレベルも一〇年前より、はるかに上がり、郡大会において昭和六〇年には、一般の部において東川老人クラブが優勝。昭和六三年には二箇Aチームが準優勝。平成二年には仕七川・中家チームが優勝した。

平成五年には仕七川Aチームが優勝、仕七川Bチームが準優勝し、松山地方大会に出場することになった。同大会でもAチームが優勝、Bチームも三位に入賞し、両



和気あいあいの大会風景

チーム共に県大会への出場が決まった。県大会においても実力を発揮し、Bチームが準優勝、Aチームが三位に入賞した。

近年の成績を見ても、高齢者の活躍は目を見張るものがある。クロッケーも健康と仲間づくり、連帯意識の高揚等に大きな役割を果たしている。

レクリエーションバレーボール大会（交流大会）

「バレーボールの魅力を、より多くの人に、心ゆくまで味わってもらいたい」このような願いをこめ、バレーボールの特色を失わないように、また、高度な技術を必要としないソフトなボールを使用し、初心者・年少者・高齢者向けとして、いつでも、どこでも、だれでもプレーを楽しむことができる、みんなのバレーボールをと考え、平成四年度から、先進地である久万町から講師を招き、ルール・審判講習会を開き、ゲーム内容を知ってもらうために、まず「レクリエーションバレーボール交流大会」を開催した。

平成五年度より、春に愛好者対象の「交流会」、秋に公民館対抗の「レクリエーションバレーボール大会」を開催している。

村内の各スポーツ行事の中でも、参加人数が増えている種目であり、高齢化時代に向けて、歓迎すべき現象である。

**卓球大会** 平成五年度で第二三回を数える卓球大会も、参加人数が増え、レベルも上がってきている。

第二三回大会は、男子八八人、女子四〇人の参加者が

あり、男子個人戦ではABC級のうち、C級三八人という激戦であった。また、大会運営も厳しくなってきたおり、平成六年度第二四回大会では会場を二会場とし、男子の部にD級を新たに設ける予定である。

#### 四 体育指導員

体育指導員は、各地域公民館の推せんを受け、教育委員会が委嘱することとなっている。

任期は二年間となっているが、一〇年以上の経験をもつベテラン指導員もあり、各種スポーツ大会における審判はもとより、大会の運営・技術指導等にも、大きく貢献している。

また、地域におけるスポーツの振興や地域行事の活性化についても、その指導力に期待している。

#### 美川村体育指導委員

年度	氏名	年度	氏名
五五〜六〇	安宅 公広	五七〜六〇	岡田 繁行
五七〜六〇	土居 昭平	五七〜六〇	下方 公士

五九〜三	村上 菊三	五七〜	中田 龍明
六一〜三	倉橋 正	五九〜	伊藤 高行
六一〜元	古見 宗敏	六一〜	伊藤 重紀
六一〜六三	福田 明文	四〜	佐伯 和彦
平元〜二	八塚 大祐	四〜	松本 和人
二〜五	船草 利一	六〜	阪本 雅彦
三〜五	釣井 好春	六〜	高山 哲也

#### 五 少年スキークラブの活動

四国随一を誇る美川スキー場から将来の国体選手を養成しようとして、昭和四三年に、村内の小中学生を対象として、少年スキークラブが結成された。

近年は暖冬が続く、自然雪の不足から、実技練習の日数も限られる中で、父母の会のバックアップもあり、活動も続けているが、まだ成果を出すまでには至っていない。

## 第四章 文化

### 第一節 文化財

祖先が築き残した有形無形の文化財や歴史は、私たちの豊かな心を育て、郷土愛を深め、歴史の流れの中に生きるものとしての使命を自覚させてくれる。

これらの貴重な文化財や民俗文化を発掘調査し、伝承保存活動に努める、という大きな使命を担い、現在六名の文化財保護委員が、地道な活動を続けている。

上浮穴郡文化財保護委員連絡協議会活動による研修会や、郡内・外現地研修、県外現地研修を継続して、保護委員の資質の向上に努めている。

本村における文化財は、上黒岩岩陰遺跡をはじめとして、数多くの貴重な文化財があり、指定文化財は、国指定三件、県指定一件、村指定九件、合計一三件である。

平成二年より、文化の里整備事業として、啓発ポスターの作成配布、地域案内略図・案内板の設置など、啓

発活動と施設の整備を図ってきた。

指定文化財一覧表

国	区分	種別	名称	員数	所在地	所有者	指定年月日
史跡	建造物	旧山中家住宅	一	上黒岩	美川村	昭和四五年六月一七日	
上黒岩岩陰遺跡	一	一	一	上黒岩	美川村	昭和四六年五月二七日	



国指定重要文化財「旧山中家住宅」



庭園	史跡	史跡	天然記念物	美術 石造	工芸	彫刻	彫刻	村 建造物	県 名勝	国 名勝
土居邸庭園	宝篋印塔	東川村旧梅木家屋敷跡(石垣)	双生矢竹	里塚石	高膳	弥陀三尊像	阿弥陀如来像	岩屋寺仁王門	御三戸嶽	岩屋寺
一	一			四本	一对	三	一体	一	一	一
大川	大川	東川	黒藤川	黒藤川 七有鳥枝	東川	有枝	黒藤川	七鳥	仕出	七鳥
壽土次居	部下落中	利片道岡	美川村	美川村	神河社崎	部有落枝	正泉寺	美川村	美川村	岩屋寺
〃	〃	昭和五八年一月二〇日	〃	昭和四八年二月二一日	〃	〃	〃	昭和三七〇月一日	昭和四六年四月六日	昭和一九年二月一七日

美川村文化財保護委員

年度	氏名	年度	氏名
四九〃	竹口 涉	五五〃	土居 敏雄
四九〃	大西 善和	五九〃	西口 武志
五三〃	伊藤 孟寛	六〃	大野 正美
五三〃	光田 有		

## 第二節 文化活動

国際化・情報化・高齢化、所得水準の向上や自由時間の増大など、急激な社会変化の中で、生活様式も変わりつつあり、文化や快適環境の創造など、ゆとりや豊かさが実感できるような環境づくりが、強く求められるようになってきている。

本村においては、文化活動の推進母体である、村文化協会を中心として、郷土芸能の保存グループや趣味・愛好者などの同好会が、活発に活動している。

毎年一一月の村主催による「みかわまつり」及び三月



村みかわまつり芸能発表会で熱演する  
美川少年太鼓



村文化祭



美川縄文太鼓

の村文化協会主催による「文化祭」を最大の発表の場として、芸能発表、生花・俳句などの作品展示を行っている。

上浮穴郡吟詠剣詩舞発表会での発表・交流活動、また、村内では、俳句大会、囲碁将棋大会などを行っている。

新たな文化の創造として、平成元年六月二十八日、美川縄文太鼓保存会が結成された。保存会結成後、創作等に取り組み、上黒岩岩陰遺跡を題材として、縄文時代のひとびとの生活を表現した太鼓ができ、同年一月三日「みかわまつり」において初演された。

また、各種のイベント・式典などで演じられるなど、活動が継続されており、村の代表芸能として、定着していくことを願っている。

平成四年、県内文化団体の中核組織として、分野別・地域別の文化団体の育成と、その有機的なネットワークづくりを行うことにより、県の文化活動の一層の活性化と、県民文化の振興を図ることを目的として、愛媛県文化協会が設立され本村も加盟していることは、特筆される。

美川村文化協会長

五五〇六一	年度	氏名
木山 徳重		
六二〇六三	年度	氏名
伊藤 孫市		
五〇	元〇四	年度
片岡 正幸	福井 広志	氏名

